

しげながら訴えて、また、自分の席へ帰って行った。

「先生、Uちゃんが、私の足をふみました。」「先生、Uちゃんが、私の椅子を押します。」「先生、Uちゃんが、私の洋服を引っ張りました。」「先生、Uちゃんが、私のクレヨンをとりました。」「先生、Uちゃんは、私の髪の毛を引っ張っていけないんです。」

「Uちゃん、間違っしてしまつたのなら、あやまりましようね。」「ごめんなさい」U子は、Uちゃんのあやまるのを満足して、こっくりする。U君は、ぴよこんと下げた頭を五秒間位下を向けて、しょげているかと思えば、直ぐにいたずらっぽいくりくりした目で四方を見廻している。今、思い出せば微笑ましい光景でもあった。自由遊びの庭では、他人の使っている砂場のしゃもじを、いきなり取っていったり、女兒達が、大事そうに広げているごぎの上の小石を持って行ったや、皆が並んで順番にのっている、ぶらんこや、滑り台に割り込みをしたり、誰かの帽子をとってかぶったり、頻々とU君による被害が耳に入ってくる。

「Uちゃんのほしいものは、誰だつて皆ほしいのよ。代り番こに使うといいのだけれど、どうしてもほしい時は、先生に言つて頂戴ね。ほら、○ちゃんはUちゃんに持つて行かれて、泣きそうになつていて可哀そうよ。返してきてあげてね」

U君には、特に気をつけて、「そんなことをしてはいけませんよ。」とか、「そういうことは、わるいことですよ。」ということばを出来るだけ、使わないことにしていた。U君には、案外、やさしい面があつて、お友達靴が見えない時に探してあげたり、池の小亀が岩の上を上らして貰えないからといってじゃぶじゃぶ池の中に入って大亀を下してしまつたり（あつという間の出来事で、近くにいた私もU君の動機が分らない中はただ驚いてしまつた）、そういう時のU君は、見違えるばかりに子どもらしく頼もしい。

「Uちゃんは、困っている人を親切にしてあげたり、お手伝もよく出来るし、何でも先生に言えるし偉いわね。何も言わないで泣いている人があつたら、代りに先生に言つてあげて頂戴ね。お友達にいじわるしたり、困らせたりする人があつたら、いけな

いんだよつて教えてあげてね」

U君に、なるべく他の幼児を、第三者として見る機会を作るように心掛けた。あれから二年近く経つた現在「Uちゃんは、いたずらだけど、親切なときもあるね。」というのが定評であるようなので、ほつとしてゐる。

常々、どんな幼児でも、他の人に愛される明るさと素直さを持つ可愛い子どもにすることは、先生の責任だと思ふ。家庭の事情等で暗い性格、いじけた態度になつてしまつた幼児を、可愛気のない子どもなどと言われるが半年以上幼稚園に通つている中には、この年頃の子どものらしき可愛さが出てきて、その幼児の笑顔は忘れ難くなる。始めは努めて可愛いと思ひ、他の幼児より屢々触れ合つて行く中に、何か溶けていくものがあるのだと思ふ。

(洗足学園幼稚園)

日々の歩み

(成功と失敗の反省)

宮崎 洋子

生きた保育とはどういふものだろうか。

昨年〇市のある幼稚園を参観、幼児の活動も日々与えられた身近かな環境に応じた歩みがなされなければならぬし、幼児が今何を求め、何を一番喜んで受けとめるであろうかという事を、しっかりと掴んで保育をしなければならぬと反省させられた。

私の組は一年保育五才児で、男児二十名、女児十九名から成っており、幼児の特性は、保護者の勤務状況(朝昼夜の三交代勤務)からであろうか、一般に気質が荒く、明朗、活発ではあるが、思慮乏しく落ち着きがない。

保育指導計画例

△ありごっこ活動▽

(六月二十日～七月二十日)

(一) ねらい

○ありや蟻の巣を観察して蟻の社会生活について話し合い友達と親しく協力して遊ぶ喜びを知る。○蟻の自由な表現活動によって創造性を豊かにする。

(二) 展開

- 1 ありの行列、餌運びを見る……(形態・自由あそび) 6月20日～
- 2 ありを飼育瓶に捕って飼ったり、巣作りの様子を見たりする……(自由あそび) 6月23日～

7月20日

3 ありの働きについて話し合ったり、蟻のいろいろな生活を童話や絵本、紙芝居で見たり聞いたりする。……(自由あそびまたは一斉保育) 6月28日～7月6日

4 ありの家を作ったり描いたりする……(自由あそび) 6月30日～7月20日

5 ありの劇あそびやリズム表現をする……(一斉保育) 6月29日～7月6日

6 楽しく蟻のゲーム遊びや蟻ごっこをして遊ぶ……(自由あそびまたは一斉保育) 7月2日～7月20日

指導の具体例

(一) 成功例

〔ありごっこ〕(六月二十三日～七月二十日)
園庭の草花に水をかけていた男児数名が蟻の巣があるようだと思つて来た。子ども達が帰った後、女王蟻を中心とした一団を見つけて、土の中と同じ状態にした飼育瓶に入れておいたが、一晩の中に卵をかかえて全部逃げてしまった。五度も六度もやりかえて、やっと八瓶用意した中、三瓶が巣作りを始め住みついた。ありは敏感で大勢いる時は土の上に出て来ない。帰った後、部屋が静かになると、そろそろ出て餌を運ぶ。子ども達は家に帰っても蟻とりをし、毎日何人かが蟻をもって登

園して来た。部屋一杯積木で蟻の巣が出来、チョークで道がつけられる。次々にやって来た子どもは否応なしに、蟻の道を通ってロッカーに荷物を片付けに行き、そこでもう蟻ごっこの一員に加わってしまう。片付けをする時は、ありが荷物を運ぶ時、食事になると「今蟻が餌を食べているんだよ」当番は働き蟻、園長先生や他の組に使いに行くのは伝れたいの蟻、一列に並んで歩けば、蟻の行列となった。

(二) 失敗例

〔秋の虫〕(九月五日～九月二十日) いつも自然物に頼っていたら成功するとは限らなかった。九月に入って季節に応じ、虫に親しみをもたせようと虫とりを計画、皆でたくさんを虫を捕って来て大事に飼った。いろいろな鳴き声を聞いた。園庭を横切り塀を越えて遠くに飛んだ虫の様子も見ただけでも毎日の活動の中心とはならず次第に消えてしまった。

(三) 反省

毎年同じ題材で展開される活動であってもその取り扱い方によっては非常に違いのある事を感じた。蛙や蟻の遊びが十二月現在なお毎日保育(自由遊び)の中に多面的に活動しているのは、幼児の興味とそれを洞察し、持

幼児を保育する教師は、幼児がたのしく一日を過ごすことができたかどうかが一番気にかかる。教師が学校の学習のように指導し、与えることばかりでは、幼児はたのしくなく、そこには将来への伸張もみえない。幼いよき芽はみなつみ取られてしまう。

幼児の自発性は常に活動している。そのため筆者の経験のように、自発性、自発活動をうまく指導する事によって、幼児はいかにたのしく、生活が生き生きとしてくることか。そこには幼児の創造性が活動し、発展している。蟻ごっこはよい例であろう。

また、筆者が案じていられるように教師としては幼児の自発性ばかりまわってはいられない。そこで教師が計画もし、カリキュラムも組んで進めていくのだが、筆者の失敗の例のようにおわるのが普通であるが、やはりそれでは筆者のように教師としても、ものたりな

く、幼児は勿論たのしくなく興味も、発展もみえない。で、教師は環堯をととのえたり、幼児に経験させたりして幼児の自発性を誘導しなければならぬであろう。即ちそこが教師の技術と手腕にまつことになるのであろう。

こうしてこそ、幼児の生活の中より取材したのと、教師の設定した計画とがスムーズにできるのだと思う。

幼稚園の教育は小学校の教科のように分別できない。六領域の経験が常に交互に来て、教師もその機会をとらえて指導しなければならぬ。その意味でも「蟻ごっこ」の発展にはよくその点があらわれている。こうして一つの主題が発展していくことにより主題は一つでも、幼児はさまざまな経験をするわけである。教師はその機会をのがさないように指導することが大切となってくるであろう。(H)

続させるべく支えて来た保育計画とが巧くマッチしたことによると思う。(大蔵幼稚園)

社会性を高めるのに

役立った集団あそび

松岡 定子

輪とりの記録

四月に三年保育の五才児(男一九名、女九名)を担当することになったので、四月から五月にかけて子どもたちの遊びのようすを観察記録してみた。(次頁表は一部抜萃)

その結果つぎのような問題点がみられた。

○固定したグループによる固定した遊びが多い。○遊びに積極的に加われない子ども三名、傍観的な子ども二名があった。

そこで特に今年度は固定したグループの枠をはずし、対人関係を広くすること、また全員が平等な立場で参加できるように集団遊びを経験させ、遊びを通して子どもたちがルールを発見し、ルールに従って遊びを進めて行くような望ましい方向へもって行くなどの指導に留意することとした。

一例をあげてみることにする。

六月中旬 六月十六日(木)、七、八名の子どもが籐製のゲームなどに使う輪を持って運動場を走り廻り、空中に投げたりしていた。

しかし遊びとしてまとまりがなく興味も持続しなかった。そこでこの輪を使用して「輪とり遊び」を考えてみることにした。

一、指導の順序と発展のようす

1、六月十八日(土)

各自一つの輪をもって自由に運動場をかけ廻り、友だちにさわったら互に(じゃんけん)をし、勝った方に輪を渡すという遊びをさせてみた。(参加人員三〇名)

「おもしろくなくかけた時やめるのか。」とい